



◆当たり前のことを当たり前に行うこと◆

校庭の木々の緑が日に日に鮮やかになってきました。田布施西小の運動場では、児童たちは汗を流しながら、元気よく遊んでいます。新しい学級での生活がスタートして4週間が経ちました。1年生は重いランドセルを背負っての登校にも慣れ、子どもたちの成長をととても感じているところです。

今年度、「子どもたちが楽しいと感ずることが出来る学校」をめざして教職員一丸となって全力を尽くしてまいります。

さて、新学期が始まり、それぞれの学級では、学級のルールの確認や当番や係の担当を決めて学級づくりをします。さらに田布施西小学校のルールも確認をします。習慣として身についたルールは学習のスキルとなり、学力の向上にも繋がります。

また、生活指導の中で子どもたちに「なぜ、そのルールが必要なのか」ルールの意味を考えさせていきます。たとえば、「廊下を走ってはいけない」はどの学校でも同じルールです。そのルールの意味、「なぜ走ってはいけないのか」を考えさせないとルールが身につきません。その意味について、心で理解させることが大切です。「チャイムが鳴ったら、席に着く」は、休み時間と区別をして学習への心構えをつくることです。このように各学級で「当たり前のことを当たり前に行うこと」を指導しています。

日々の生活の中で、朝起きて学校に行くこと、出会った人にあいさつすること、先生の話に黙って聞くこと、宿題をやること、靴を揃えること、時間を守ることなどはできて当然のことかもしれませんが、当たり前に行うことは大変素晴らしいことだと思います。

「あいさつ」「身の回りの整理整頓」「時間を守る」など、生活に必要な基本的な習慣が身につくと、生活が整い、気持ちが安定し、自分に自信がもてるようにもなります。

これらのことを子どもたちが身につけていくには、日々の積み重ねと周囲の大人のサポートが必要です。「頑張ったね」「よくできたね」などのちょっとした言葉が子どもたちには嬉しく、やる気アップにつながります。ご家庭でも、当たり前のことをきちんと頑張っている子どもたちに、褒めたり励ましたりする声かけをお願いいたします。